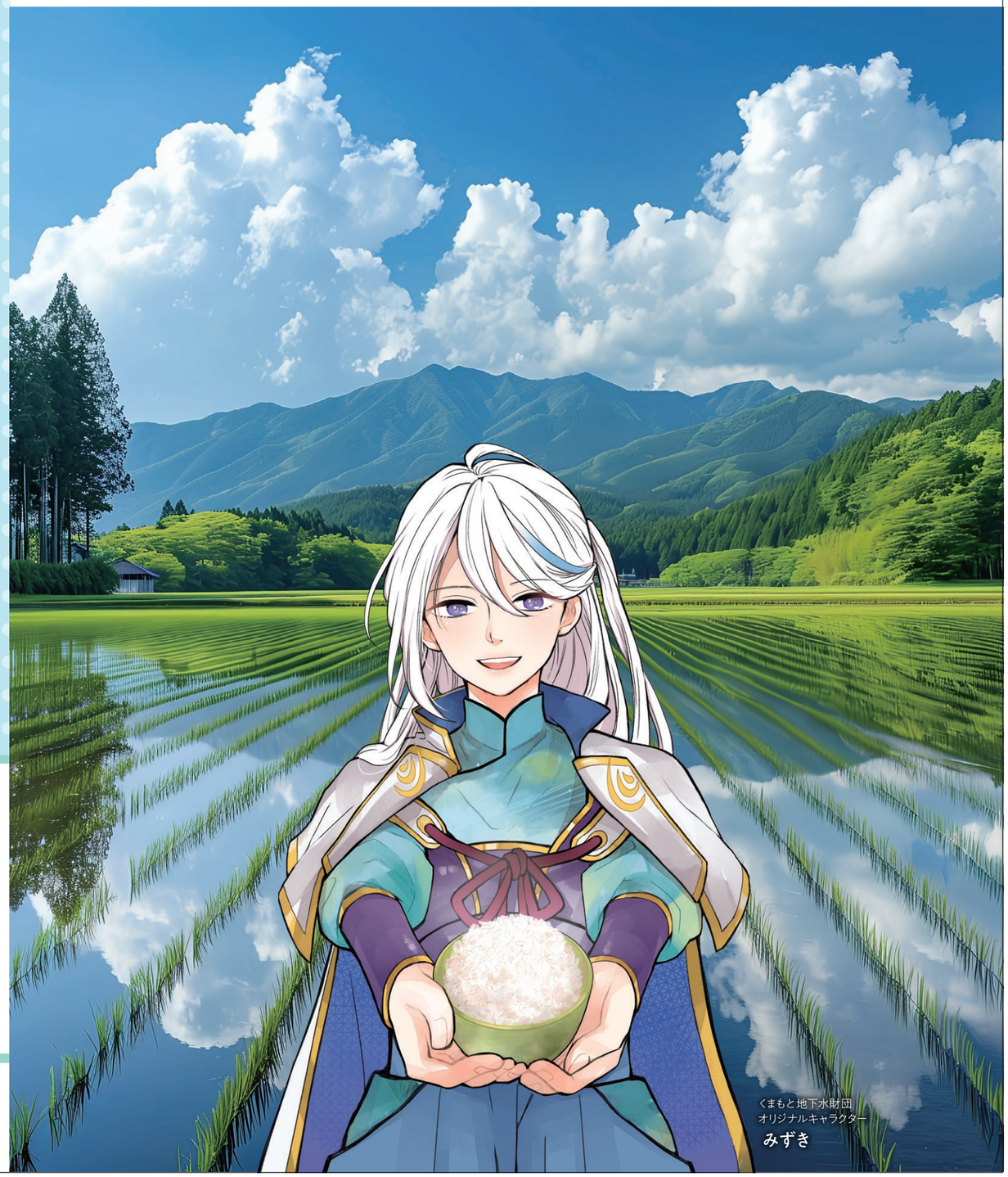
くまもと育水会

Kumamoto Clear Water Alliance

令和６年11月7日発行
Vol.22 Member's Magazine

Contents

2~3 ウォーターオフセット特集
4 シンポジウム内容紹介
インスタキャンペーン告知



シンポジウムを開催しました!

モッちゃんと考えよう!くまもとの地下水の価値 ～半導体と水～

水循環基本法で定められた水の日である８月１日に水の日記念シンポジウム「モッちゃんと考えよう！くまもとの地下水の価値 ～半導体と水～」を開催いたしました。

主催者を代表して大西理事長の挨拶に続き、今年も本橋 馨氏をスペシャルMCとしてお迎えし、半導体に精通した小山 善文氏（熊本高専特命教授）、水のスペシャリストである川越 保徳氏（熊本大学大学院先端科学研究部教授）、廣畑 昌章氏（熊本県環境保全課長）、そして当財団事務局長の勝谷 仁雄 の５名でトークショーを行いました。

今回のトークショーでは、「くまもとの地下水の価値 半導体と水」をテーマに現在の熊本地域の地下水の状況や、そもそも半導体ってどんなものか、そしてなぜ半導体製造には大量の水が使われているのか、半導体製造で使われた水はどう処理されるのかなど、皆さんが疑問に思っていることを出演者の方々にお話しいただきました。

さらに、皆さんが不安に思われている、環境への影響の確認状況や、地下水保全の取り組み状況などについての有識者からの説明を、本橋氏からさらにわかりやすく参加者へお伝えいただきました。

「熊本地域の地下水は広い地域で共有されているので、地域全体で保全を考える必要があること」「正しい情報を伝え、正しく理解していただくことが必要」とこれからも地域一体となって地下水保全に取り組んで行く必要性を改めて考える機会となりました。

シンポジウムの最後の質問コーナーでは、会場からたくさんの質問が寄せられ、登壇者の方々に時間の許す範囲でお答えいただきました。

参加者からは、「入門編として全体を網羅したわかりやすい内容だった」「気になっていた半導体企業進出による熊本の地下水の影響について知ることができました。特に地下水かん養推進事業によって、熊本の地下水量を増加させていることを初めて知りました。」などのご意見をいただきました。

応募方法

①財団の公式 Instagram アカウントを**フォロー**
(@kumamotochikasuizaidan)
※既にフォロー済みの方も応募可能です!

②キャンペーン記事に**いいね♡**

③熊本の水についての想いを
キャンペーン記事に**コメント**

賞　品

くまもと地下水財団公式Instagramフォロワーの方で、いいね♡とコメントをいただいた方から抽選で20名様に「プチ贅沢朝ごはんセット」をプレゼント!

～賞品内容～

■お米（熊本県産米）5kg　■味付け海苔　■匠の味噌（山内本店）500g

応募締切

2024年11月30日（土）23:59まで

※注意事項などは、くまもと地下水財団HPをご覧ください！ハイライトから飛べます!

公益財団法人
くまもと地下水財団

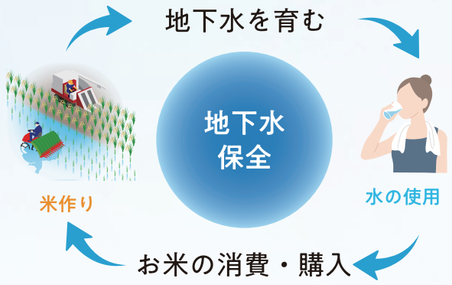
TEL 096-227-6678　FAX 096-247-6661
〒860-0801 熊本市中央区安政町8-16 村瀬海運ビル4F

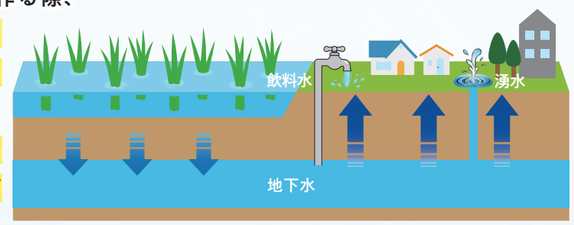
くまもと地下水財団
https://kumamotogwf.or.jp/

ウォーターオフセットで守る、くまもとの地下水

1 ウォーターオフセットとは？

「ウォーターオフセット」とは地下水を育む田畑で栽培された農産物（農産加工品）や、それを食べて育った畜産物を購入・消費することで、地下水保全につなげる取り組みです。
熊本地域にとって田んぼの役割はとても重要です。
雨や河川から田んぼや畑に供給された水は、ゆっくりと地下に浸透し、地下水となります。特に田んぼはお米を作る際、水が張られているので、**田んぼは私たちが食べるお米を作るだけでなく、私たちの生活に欠かせない地下水をたくさん育んでいるのです。**
水を使用する私たちが、熊本の農作物等を食べることにより、農業を応援し、その行動が未来の地下水を育むことにつながります。





2 かん養域の現状は？

田畑や森林などの水が浸透しやすい土地のことを「かん養域」、宅地や市街地などの水が浸透しにくい土地のことを「非かん養域」といいます。
昭和51年に比べて、令和3年の非かん養域は約2.3倍に広がっています。
これは、都市化の進展等で、農地面積が減少していることを意味しています。つまり、地下水を育む土地が減っているのです。

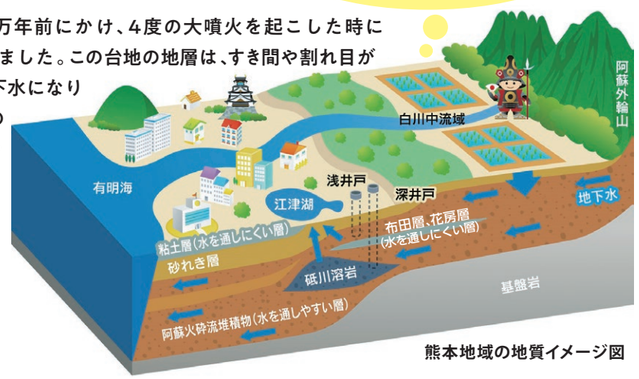
■かん養域（田、畑、森林等）　■非かん養域（建物等）
※国土交通省 国土数値情報 土地利用細分メッシュデータを基に作成

くまもとのお米を食べることは、
くまもとの地下水を守ることにつながります！

熊本地域にとって重要な白川中流域！

白川中流域のお米はごはん1杯分で1500ℓの地下水が育まれます！

熊本の大地は、阿蘇山が約27万年前から約9万年前にかけ、4度の大噴火を起こした時に噴出した火砕流などが降り積もって出来上がりました。この台地の地層は、すき間や割れ目が多く、水が浸透しやすいため、降った雨などが地下水になりやすい特徴があります。約400年前、加藤清正公の時代から農業用水が乏しかった白川中流域に堰や用水路(井手)が築かれ、水田が広がりました。
この白川中流域の水田は通称「ざる田」と呼ばれ、**通常の5倍から10倍もの水が地下に浸透します。**
さらに、白川中流域の下には“水を通しにくい層”がなく、**直接、深い層に水が浸透し、たくさんの地下水が育まれています。**



熊本地域の地質イメージ図

地下水と土を育む農業 & くまもとグリーン農業

熊本県では環境に配慮した「くまもとグリーン農業」や「地下水と土を育む農業」を推進しています。
地下水等の環境に配慮して生産された農産物を購入、消費することも地下水の量や質の保全に寄与します。

くまもとグリーン農業応援宣言

夏子先生の地下水を育むレシピ

フードコーディネーターの渡辺夏子先生（Nut's Co.ナッツカンパニー代表）に開発していただいた『地下水を育むレシピ』のメニューを紹介！

ごちらをチェック！